



東大成小だより

さいたま市立東大成小学校

令和4年 12月1日

ホームページ:<http://higashionari-e.saitama-city.ed.jp>

Tel 663-3210

Fax 663-9883

子どもたちを見守る眼 ～学校運営協議会でいただいた意見から～

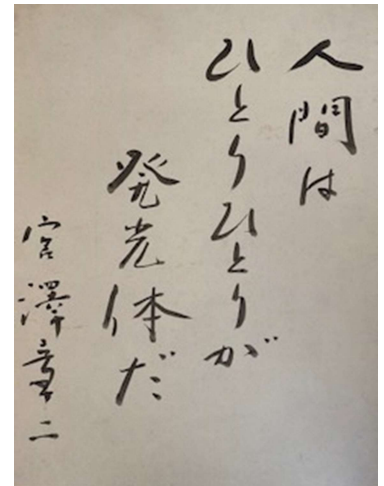
校長 岡田 健彦

校庭にある夏ミカンがたわわに実っています。冬の青空から注ぐ太陽の光を浴びながら鮮やかな黄色の実を大きくしています。子どもたちは、「きっとおいしくなるね」と笑顔で話しています。

さて、先日、第2回学校運営協議会が開催されました。熟議では、①登下校と放課後の安全対策について②児童の学力向上について各委員の方々から多数の意見をいただきました。代表的なものとしては、自治会や交通指導員さんからの登下校や地域の安全を見守るボランティアさんの体制の強化、PTAからの校内学習スペース設置と活用支援、民生委員さんや公民館長さんからの教育講演会等の実施による家庭教育への啓発などです。学校と家庭と地域の役割分担の明確化をねらいとして設定した熟議でしたが、あらためて、それぞれの連携や協力体制の強化が大切であるとの結論に至り、校長としてさらに前向きに子どもたちのために動いていこうと強い覚悟のもと、学校経営を進めてまいります。

ところで、最近、校長室の前に、多くの子どもたちが来ます。それは、「東大成小博士ちゃん」の一覧を掲示したからです。以前の募集で16人の「博士ちゃん」が自分の得意な分野の発表を約3分間の動画に撮り、Microsoft Teamsの「東大成小博士ちゃんねる」にアップロードしてくれています。どの子も生き生きとした表情で「持ち味」を生かした発表しています。児童の興味関心の高さにも驚かされます。校長作成のオリジナルメダルを首にかけてあげると喜んで教室に戻ります。

私は、校長室に本市北区に在住していた詩人故宮澤章二先生の色紙を飾っています。「行為の意味」という「こころ」はだれにも見えないけれど「こころづかい」は見える 「思い」は見えないけれど「思いやり」はだれにでも見える(抜粋要約)というフレーズに心当たりのある方も多いと思います。その色紙には、「人間はひとりひとりが発光体だ」と書かれています。本校には、513人の在籍児童がいますが、誰一人として同じ能力や個性をもった子はおらず、一人ひとりが異なる「持ち味」をもっています。私は、それを如何なく発揮できる学校でありたいと願っています。基礎学力の定着と学力向上は、最重要課題として取り組んでいるところではありますが、豊かな人間性の育成は、全人教育を行っている教育の場として欠かすことのできない重要な課題であるとも認識しています。



多忙な世の中で、家庭の中で子どもとゆっくり会話をできない現実がある昨今ですが、学校運営協議会の委員の皆様からは、学力向上を図っていくうえで、家庭で生活習慣を身につけ、保護者が温かく子どもを見守ることが大変重要であるという意見をいただきました。忙しさの中で、子どもたちへの心を亡くすことだけは避けなければならないとあらためて実感いたしました。2学期も残り少なくなってきましたが、学期末の折には、各御家庭で今学期の学習の成果の振り返りをしていただきますようよろしくお願いいたします。